多摩ニュータウン南大沢 40 年 CI プロジェクトと

高齢者と子どもたちのエンパワーメント支援

炭谷　晃男　教授

(社会情報学部　社会情報学科　情報デザイン専攻)

1 経緯

2023 年は多摩ニュータウンの西部地域の拠点となる南大沢がまちづくり 40 年を迎えます。多摩ニュータウンも成熟度が増し、「本当に住みやすい街大賞 2021 シニアランキング」(ARUHI 調べ) で南大沢が第 2 位に選ばれた。確かに駅前の整備された車歩分離歩道、都立大学、スマートシティ構想など、南大沢ならではの資産を活かし、地域の情報の一元化、まちの中心づくりなど、市民と行政が協働で進めるまちづくりが求められている。

そこで、まちびらき 40 年を経過した八王子市南大沢地区の再生プロジェクトに協力しながら、住民の活動を支援するプロジェクトに取り組んだ。さらに、子どもプロジェクトとしての寺子屋活動は月に 1 回程度、八王子市内の小学校施設を借用して小学生のためのサタデースクールを実施するもので継続的に実施した。高齢者プロジェクトとしての高齢者サロン活動にも継続的に取り組んだ。

2 プロジェクト

a.　南大沢川柳プロジェクト

八王子市南大沢は 2023 年にまちづくり 40 周年を迎える。南大沢は多摩ニュータウンにおける西部地区の中心的地区となっている。そこで当該地区で活動している市民団体である「南大沢コミュニティネットワーク」の団体との協働事業として、市民に対して南大沢に関わる川柳を公募した。

なぜ川柳なのかと言えば、それぞれのまちに対する思いを言語活動によって表現しそれを収集することにした。川柳は、短歌とは違い五・七・五の短い 17 文字で表現され、同じ語数の俳句とは違い季語などはいれなくとも良く、誰にでもつくりやすい特徴がある。それぞれの南大沢に対する思いを 17 文字で表現してもらった。結果として 432 句の川柳が集まった。



川柳作品展の案内チラシ

募集期間　　7 月 13 日～9 月 15 日

作品展示　　10 月 8 日～23 日　八王子市生涯学習センター南大沢分館

10 月 26 日～11 月 11 日　八王子市社会福祉協議会はちまるサポート由木

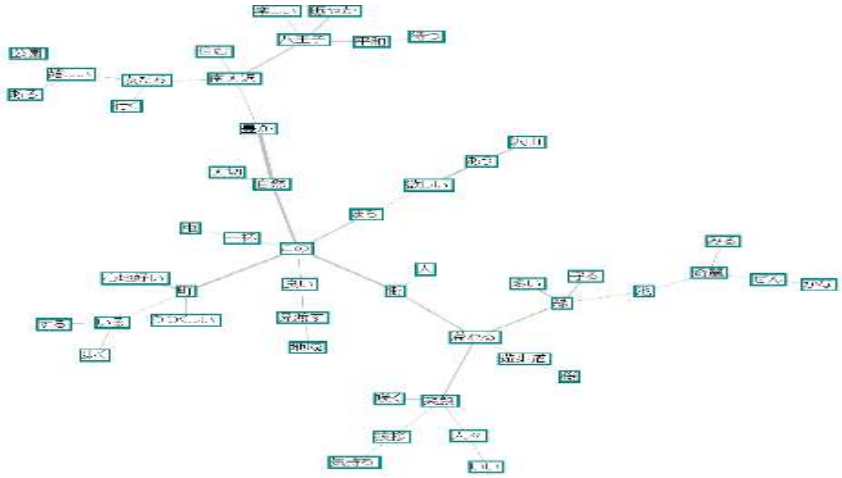
2 月 1 日～2 月 15 日　　イトーヨーカドー南大沢店

子ども部門にはたくさんの小中学生からの川柳が寄せられた。多数の川柳を寄せて頂いた宮上中学校、長池小学校、柏木小学校、南大沢小学校では学校に作品を持込み校内提示を行った。さらに、報告書として「わたしたちの南大沢川柳」プロジェクト報告書を作成した。

応募された川柳作品をテキストマイニングの手法を用いて用語分析を行った。その結果用いられた用語の頻度の高い順に①自然、②町、③南大沢、④街、⑤緑、⑥豊か、⑦八王子、⑧溢れる、⑨

奇麗、⑩笑顔の順であった。

需要キーワードの関連性をビジュアル化した結果を見ると「ゆたか」－「自然」が基本的な軸となり、「南大沢」を中心に「八王子」は「たのしい」「にぎやか」「平和」、他方「友だち」と「嬉しい」の相関性が高くなっている。「平和」という言葉が登場しているのも、ロシアのウクライナ侵攻という事態がもたらしたものと推察される。詳細な分析は省略するが「重要キーワードマップ」を参照ください。



川柳の重要キーワードマップ



イトーヨーカ堂南大沢店での川柳作品展



高齢者サロンにおける川柳作り



サロン参加者と障害者とのぼっちゃ競技

b． 子どもの居場所プロジェクト：寺子屋

多摩キャンバス周辺の八王子市立松木小学校、長池小学校で月に 1 回程度土曜に学校の教室や体育館を借りて子どもの活動を支援する寺子屋活動を実施している。寺子屋の活動内容としては寺子屋学習教室（漢字検定）、ドッヂビー、ボッチャ、プログラミングカー、プラ板、万華鏡教室はじめ Xmas や正月ゲームなど季節行事も行っている。その集大成として 3 月 21 日(祝)に堀之内こぶし緑地で「竹たま里山まつり」を企画した。

c． 高齢者の居場所づくり:高齢者サロン

ボッチャはパラスポーツの 1 種であるが、障がい者スポーツとしてだけでなく、老若男女誰でも、障害の有無を超えて楽しめるユニバーサルスポーツとしてボッチャがオリンピックのレガシーとして定着してほしいと願って取り組んでいる。今年も第 7 波、8 波の感染拡大によりスマートフォン講習やスポーツは中断せざるおえなかった。しかし、上記川柳作りを高齢者サロンで行い、創作した作品を読み合ってお互いが鑑賞しあった。共感したり、笑ったり、しんみりしたり、高齢者サロンでの川柳作りの手応えを得ることができた。

以上のように、学生達にこのような地域社会で、他の団体とのコラボレーションを通じて、子どもや大人にかかわる機会を与えて頂いた「大妻女子大学地域連携プロジェクト」に感謝申し上げる。